



新板
絵入

御伽本平記

五之巻

特別
^13
4337
5



~13
4337
5

于時寛政二年

丙辰年正月吉日

重百原吉如

< 2003-016 >

神伽太平記

五之卷

目錄



才一 主の身ミ部カに成ナ心コの内ウチの善ヨシ行トウ

非ヒが目メにニ思シ量リヤウの能ノ心ココロ息イキ所トコロ

流ナへニ心ココロとト漕スりと握クちと善ヨシのノ會カイ欲ヨク

若ニ世ノのノ縁縁壽シユのノ命イハレとト善ヨシがノ法ホウ命メイ

才二 宗てゆりちおの物もしも思ふ所乞

宗の祝曲よこがゆる沖の舟

目てあくるをわりのくちら只からよが急

和贖の治拍子にやうてまの追風

才三 場よよあててまをう、者むひあすあか

生死のころよんは運ふ過堂の内

年月の懸懐つ女に花鳥里の花

年代はまき紀程よ載る還幸の静

① 主の祝歌りに成る心の内は異行

智は是世とあまひと欲し。勇は主下に欲する人事と欲と。上人の

言無下万々の祝歌り。今天下の心は福余の権勢より出

やくましく風氣とやうと下と侮う。社業をりうりうり。こ

かこけて。富余は海路を。物ひあまひ。いふまき。物ひいふまき。若くは系島。四

と若も。奴婢僕役のこく。物ひあまひ。いふまき。物ひいふまき。若くは系島。四

つじいん。多うりうり。の心は福余より出り。物ひあまひ。いふまき。物ひいふまき。若くは系島。四

とつやう。の心は福余より出り。物ひあまひ。いふまき。物ひいふまき。若くは系島。四

横場のこく。福余より出り。物ひあまひ。いふまき。物ひいふまき。若くは系島。四

又、まの目のをまう。はて。あまひ。いふまき。物ひいふまき。若くは系島。四



かくらやと書えたる遊一とゆりきうくはせむも取りきり。ゆわきに梳
 ちの目とまう。目目その心とてま出るとまると妙琳にあらぬと
 せられむらむに非まへ海はらうらぬ。まてはきやくとく梳たあ
 腹とまアアゆきとまうて。おのまか知事まや。い。おのまかこれとて
 とまうて。梳ちあつとまうて。おのまか知事まや。い。おのまかこれとて
 おのまかのこまこれとておのまか知事まや。い。おのまかこれとて
 目いちうり。うり。おのまか知事まや。い。おのまかこれとて
 合点のゆらぬ。おのまか知事まや。い。おのまかこれとて
 と。おのまか知事まや。い。おのまかこれとて
 日し。おのまか知事まや。い。おのまかこれとて

(二) 二つておのまか知事まや。い。おのまかこれとて

天下革命の切な。おのまか知事まや。い。おのまかこれとて

戦いむ。おのまか知事まや。い。おのまかこれとて
 小の。おのまか知事まや。い。おのまかこれとて
 の。おのまか知事まや。い。おのまかこれとて
 と。おのまか知事まや。い。おのまかこれとて
 ね。おのまか知事まや。い。おのまかこれとて
 ぶ。おのまか知事まや。い。おのまかこれとて
 育。おのまか知事まや。い。おのまかこれとて
 の。おのまか知事まや。い。おのまかこれとて
 の。おのまか知事まや。い。おのまかこれとて
 ま。おのまか知事まや。い。おのまかこれとて
 の。おのまか知事まや。い。おのまかこれとて
 の。おのまか知事まや。い。おのまかこれとて
 の。おのまか知事まや。い。おのまかこれとて

仲時よるある國つしかなしと仲時ふらてくるころいふに仲時
 りの口懐き返り進むるありしころ仲時書がくくを御家の病なり
 強念のなき代りにて前時御時より向う付し奉りしは、今も
 昔の御時より仲時御家よりいふは、仲時を今も今も今も今も
 てつりやるといふあの日には、仲時を今も今も今も今も
 ともいひかくしけるあの日には、仲時を今も今も今も今も
 とて仲時を今も今も今も今も今も今も今も今も今も今も
 うりあがり仲時を今も今も今も今も今も今も今も今も今も
 物事とていふ、仲時を今も今も今も今も今も今も今も今も今も
 てう。仲時を今も今も今も今も今も今も今も今も今も今も
 仲時を今も今も今も今も今も今も今も今も今も今も今も
 仲時を今も今も今も今も今も今も今も今も今も今も今も

仲時よるある國つしかなしと仲時ふらてくるころいふに仲時
 りの口懐き返り進むるありしころ仲時書がくくを御家の病なり
 強念のなき代りにて前時御時より向う付し奉りしは、今も
 昔の御時より仲時御家よりいふは、仲時を今も今も今も今も
 てつりやるといふあの日には、仲時を今も今も今も今も
 ともいひかくしけるあの日には、仲時を今も今も今も今も
 とて仲時を今も今も今も今も今も今も今も今も今も今も
 うりあがり仲時を今も今も今も今も今も今も今も今も今も
 物事とていふ、仲時を今も今も今も今も今も今も今も今も今も
 てう。仲時を今も今も今も今も今も今も今も今も今も今も
 仲時を今も今も今も今も今も今も今も今も今も今も今も
 仲時を今も今も今も今も今も今も今も今も今も今も今も



清く静く白くくはらふ波の如くあはれまじりて
あはれ入りなすもあはれなる。花松津所則松村と
方の名軍同討つる。合をるをよみてまゝ
合のた鑑か妙くむくむく。何れも一門の
いふ。東勝寺は自宮ゆり。おそく
より。柳屋のみのとへ。ひよまなり。日月の
まゝとく。くむ。還する。まじりて。百の改
鳥り。海風と。わて。む。と。唱。り

寛文曆六年

みこ巻紙

子正月吉日

京麩石町通誓願寺下町

八文字屋八左衛門板

